

平成30年 2月

仁科祐子 学位論文審査要旨

主 査 深 田 美 香
副主査 前 垣 義 弘
同 吉 岡 伸 一

主論文

A survey of epilepsy-related knowledge, attitudes and practices of home healthcare nurses in the San-in region of Japan

(山陰地区の訪問看護師のてんかんに関する知識、態度、実践についての調査研究)

(著者：仁科祐子、吉岡伸一)

平成30年 Yonago Acta Medica 掲載予定

参考論文

1. 訪問看護師の仕事満足度を高める臨床心理研修プログラムの試行と評価

(著者：仁科祐子、金子周平)

平成28年 米子医学雑誌 67巻 49頁～55頁

審 査 結 果 の 要 旨

本研究は訪問看護師のてんかんに関する知識、態度、実践について、質問紙を用いて調査し分析を行ったものである。その結果、訪問看護師のてんかんに関する知識は全体的に高かったものの、認知症に伴うてんかんやてんかん発作対応に関する知識がやや不十分であることが明らかとなった。また、てんかんのある人への訪問看護経験者は4割を超え、看護実践内容は医療的ケアや日常生活ケアの実施率は高かったが、社会資源に関する情報提供の実施率は低く、訪問看護師に向けた最新知識の情報提供の必要性が示唆された。本論文の内容は、てんかんのある人の訪問看護の現状と課題を把握し、包括ケアの視点から訪問看護師へのてんかん教育のあり方を示唆するものであり、明らかに学術水準を高めたものと認める。